

東北新報

本紙は毎月二十日発行
毎号一円二角五分
定額三ヶ月三円七角五分
半年六円五角
一年十二円
電話 石城郡小名濱町北日新街
電話 石城郡小名濱町北日新街
電話 石城郡小名濱町北日新街

社説

本郡の経済界も少しづつ安定の歩を進めてゐるが最近に到つて積極的方向へと展開して来た事は誠に喜ばしい現象である。地方金融の途絶は産業の發達を阻害するばかりでなく引いては中産階級の商人を亡滅する事になる確信性を有する銀行へは「定期預金をする理解を待する資本関があり、銀行は對物對人といふ車の兩輪のごとき金融關係を悟つて大膽に融資貸付を爲す一面に細心なる注意を拂つて内容の資金を計るならば決して銀行は今日の如き破目には墮落しなかつたであらう。今より將來に向つても前提のごとき出發をする事は地方の發達に絶大な力となるのである。地方有力家は進んで銀行業者を理解し、銀行の内容容素質をせん擇し、信用を以て取引する事が、次いで地方産業を助長する事になるのであるから、安定した金融界に更に一歩を進めて地方産業發達と、商業取引の活潑を期する絶好の機を捕へて銀行業者と相携携して好轉に努力すべきである

小名濱大敷網問題で平検事局は平和の解決を希望

それとなく兩者に注意す
或は近く解決されるか

高橋氏の横車から遂に悪化した小名濱の大敷網問題は第三者の調停も空しく刻一刻と險惡な空氣がみなぎる何時流血の悲惨事を見ぬとも限らぬ程の重大さを帯びて来たので平検事局では事を未然に防ぐ目的から愈々非公式の調停を計る事となつた

高橋側からの權利擁護の願出

空氣は依然險惡

石城郡小名濱の大敷網問題協せしめる爲めに十日投票は白井側で業務妨害の告訴する豫定だつた白井側は提起したのと同時に假處し投網を延期する様注意分の申請をしたので一方高橋氏側からも平署に權利擁護を願出た

願出た 爲め平署でも兩者の對抗は益々深刻化して来た斯くの如く危險な状態にあるため處分の申を受けた平區裁判所でも悪化を放任して償け九日午前三時ころ石城郡草

泉崎の小賊

忍び込んだ

九日午前三時ころ石城郡草野村大字泉崎吳農田惣アツヤと思ふ間もなく轢断されたが同所はゾクに魔の

七福會觀櫻會

石城郡内郷村高坂四家一福會では来る十三日觀櫻會を催すが會費は三圓、希望者は會長千葉辯護士方に申込みたいと

無免許の自動車運轉手

遂に人家と衝突

金二十圓餘在中の手提金庫石城郡小名濱町野口自動車運轉手成田清助(二三)より四倉署では直ちに非常線を張り犯人を捜査した結許で泉村大平信吉所有の貨車六時に至り遂に逮捕した物自動車運轉手江名町南町犯人は双葉郡熊町村生れ住を疾走中前方から自動車所不定大工職渡邊次男(四)と判明した

鐵管を喰ふ

下落合の魔の踏切で

コトちゃん惨死

上り客車の通過後

下り貨物にれき断され

石城郡警備隊下船尾同村踏切と稱し附近の者が非常港を利用し輸送運賃の遞減に刺戟され各炭礦でも商軌條も省線同様のものを敷設し積雪等をなす

九日早朝盛岡市地方は俄かに氣温が低下し八時半ごろから夜來の雨は雪に變り正午ころまでに約二寸以上も積つたが四月十五年の四月と昨年四月で三回目の大雪であつたと(盛岡より)

小名濱商港實現後

平、内郷間に電車敷設

磐炭の第二期計畫案

小名濱商港實現後平小鐵道測され商港實現の具體化の開通は常城地方炭礦の輸共に石炭輸送上の改革が行送上一大改革を促すものはれんとしある

現と石炭輸送との關係に早くから眼をつけてゐた磐城炭礦では

商港から石炭を輸送する計劃を樹つてあるがその計画内容を探聞する處に依ると礦務所の所在地では十日午前十時から同町海岸に於て新本署長のもと同礦電所まで専用電車を敷設しその軌道に依つて平驛まで運んで来た

石炭を平小鐵道をもつて小名濱町に直接汽船に依つて小名濱商港から市場に販出するの事である

軌條も省線同様のものを敷設し積雪等をなす

直接港まで送れる様

由であるがこの計画に刺戟され各炭礦でも商軌條も省線同様のものを敷設し積雪等をなす

大野佐藤小頭外二十三名

大久比佐野伍長外十三名

四倉二田伍長外十名

大浦根本組頭外二十一名

大野佐藤小頭外二十三名

大野佐藤小頭外二十三名

大野佐藤小頭外二十三名

大野佐藤小頭外二十三名

大野佐藤小頭外二十三名

大野佐藤小頭外二十三名

大野佐藤小頭外二十三名

大野佐藤小頭外二十三名

大野佐藤小頭外二十三名

西洋丸昇軒

無理を云ふのではないの、それが今すこし百澤の旦那も警察の人も注意したからどうか考へるのです、裏の通りは一體何間ある道路ですか？(デフ生)

筆洗ふ前に

營業銀行の角に二人の若い男女が立つてゐた

提灯に赤い十字の印がついてゐる

ごこの教會で傳道するための人達らしい、そのうち一人はモトの街を歩き廻つてゐる人の群へツライトの光まぶしい自動車が八方へ飛んでゐる

神の道にさへ人達に神の福音をたいやうとする人は、ぼんやり立つてゐるさんび歌を歌う氣にもなれないらしく、餘ほんやりと四方を見廻してゐる

あの人は、ガザに下る荒野の道につかわされたものに世の人の紫の衣の帯をなみまき、ぼんやりと歩んでゐるまいかそんな事を考へながら行きすぎたが、いかに度ふりかへつてもあの人達の口から福音がさびびりなかつた

試験の途上におかれてゐる人、それはあの人達のまらやない、人生は試練の舞臺面であるよ

大流行レニグー映画

君戀

來週有聲座上映

君戀

君戀

君戀

君戀

君戀

君戀

君戀

君戀

君戀

君戀

君戀

君戀

君戀

君戀

